

## シドニー発着のセレブリティ・エッジ乗船記(その1)

2025.11.14 池田良穂

オーストラリアは、人口当たりのクルーズ人口がアメリカよりも高く、世界一のクルーズ浸透率を誇っています。オーストラリア国籍のクルーズ客船は小型船を除くとありませんから、オーストラリアの人々のほとんどは外国籍のクルーズ客船を楽しんでいることになります。実はオーストラリアでは、クルーズ客船のカボタージュ規制がないため外国籍の船でも国内クルーズができます。このため多くのクルーズ客船がオーストラリアの港を発着する短い国内クルーズや無寄港クルーズを楽しんでいるのです。

以前、シドニー発着のRCIの「オペーション・オブ・ザ・シーズ」のニュージーランドクルーズに乗船したことがあります。ニュージーランドまでの航海は結構長く、10日間あまりのクルーズでした。本学会の会誌41号に赤井会長や武者会員のシドニー発着のショートレポートを読んで、俄然、オーストラリアの国内クルーズに乗ってみたくなっていました。そんな頃、ロイヤル・カリビアン・クルーズからの1通のメール案内が届きました。グループ内のセレブリティ・クルーズの「セレブリティ・エッジ」によるシドニー発着の国内クルーズの案内で、オーストラリア本土のエデンと、本土の南の海上に浮かぶタスマニアに寄港する5泊6日のショートクルーズでした。しかも、上等級のベランダ付きの部屋がかなり割安になっていました。現役時代に、オーストラリア政府の依頼で同国のアルミ船造船所の視察をさせていただき、タスマニアにあるインキャット造船所も見学させてもらい、東日本フェリーの高速カーフェリーを同造船所で建造することになった関係で、1990～2000年代にタスマニアには数回訪問していたので、想い出のノスタルジア・ジャーニーにもなりそうと、さっそく予約をいれました。

関西空港から羽田空港で乗り継いで、14時間余りの時間をかけてシドニーに到着しました。羽田発は23時少し前で、シドニーには10時半に到着。日本とは2時間の時差があるので、日本時間の8時半。夜行便なので、アメリカやヨーロッパと違って時差ぼけはありませんが、さすがに10時間の飛行は疲れます。

到着したシドニーは初夏の気候で、タクシードライバーも半袖の服でした。日本はもう初冬の気温でしたので結構着込んでいたので汗だくとなりタクシーの中で上着とチョッキを脱ぎました。

タクシーは30分ほどでハーバーブリッジの付け根にある客船ターミナルに到着。料金は80オーストラリアドルでした。ターミナルでスーツケースだけチェックインしてもらって、近くのサーキュラー・キーを散歩して、「セレブリティ・エッジ」の姿と、出入りするフェリーと観光船の姿をカメラに収めました。

13時過ぎに乗船。オンラインチェックインでは14時からの乗船と指示されていましたが、すぐにチェックインで待たされることもなく、パスポートのスキャンと顔写真の撮影だけでスムーズに進み、船内に入れました。入るとすぐにマスターハスティングに行くように指示され、待機していた船員に乗船証をスキャンしてもらい、「セレブリティは初めてか?」との質問に「乗ったことがある」と答えると、「では非常時の行動は知っているね」といつて避難訓練は終わりました。10階のキャビンに荷物を置いて14階のカフェテリア・レストランで昼食。同レストランの最後尾のオープンデッキからは、サーキュラー・キーに出入りするフェリー、観光船の姿がひっきりなしに見ることができました。



シドニー港に停泊する「セレブリティ・エッジ」です。給油船がとまっていました。



「セレブリティ・エッジ」の前をフェリーや遊覧船が行き交います。



客船ターミナルと停泊する「セレブリティ・エッジ」です。



「セレブリティ・エッジ」の14階のカフェテリア式レストラン「オーシャンビュー・カフェ」の最船尾のオープンデッキから、有名なオペラ座と、入港するタンカーやフェリーの姿が見えました。



オペラ座の前をたくさんのフェリーが行き交っていました。



「セレブリティ・エッジ」の船上から見たサーキュラー・キーの小型客船桟橋です。入港する在来型フェリーは「ナラビーン」。両頭型の順客船フェリーです。